

広島大学 高等教育研究開発センター 大学論集
第40集 (2008年度) 2009年3月発行：107-125

米国研究大学における大学院管理

阿曾沼 明 裕

米国研究大学における大学院管理

阿曾沼 明 裕*

1. 目的と課題

知識基盤経済といわれる今日、大学院教育が重視されている。しかし、大学院教育の組織的な側面や管理運営についてはこれまで必ずしも研究が進んでいるとは言えない。また、我が国の大学院制度のありかたを考える際に、しばしば米国の大学院がモデルとされるが、米国の大学院組織や管理運営については、参考とされる割に研究は少ない。個人的な経験に基づく事例紹介を除くと、日本ではほとんど館（1994, 1997, 2004）によるもののみである¹⁾。米国においても大学院協議会（CGS-Council of Graduate Schools）など大学院教育の管理について文献は限定されている²⁾。

そこで本稿では、ディーン（Dean）や副ディーン（Associate Dean）へのインタビューによる知見をベースに、大学がどのように大学院学位プログラムに関与し、コントロールしているのか、そこにどのようなパターンがあるのかを検討する。なお、本研究は全学的なレベルを対象とし、個々のスクールやカレッジの内部組織（department や program）のレベルについては別の機会に検討を行いたい。館（1994）は、全学的な管理組織について、グラジュエート・スクール（Graduate School, 以下ではGSと略す）を主な検討の対象としたが、本稿ではそれ以外の場合も含めたパターンを整理する。そして、個別のスクール（school）やカレッジ（college）に対するインタビューを行うことで、全学的な管理組織と個別スクール又はカレッジ（以下、カレッジも含めて、スクールと呼ぶ）の役割分担について検討する。なお、専門職学位と研究学位の併存が多様性をもたらしていると考えられるので、多様性を見るために、専門職学位と研究学位の双方で米国の大学院教育をリードする研究大学を検討の対象とする。

大学院教育のコントロールというと評価システムの話になりがちだが、評価システム以上に組織や運営の構造がより重要であると考え、組織や運営の検討に焦点をあてる。

米国の大学院制度は中央政府による統一的な規制がないためきわめて多様であり、整理することも容易ではない。本稿での検討もあくまで大学院管理の一側面を照らすにとどまるものである。

2. 視点と方法

(1) 大学院教育のコントロール

大学院プログラムのコントロールとは、大学院プログラムの量と質の決定に対するコントロールという意味である。大学院に限らず教育プログラムは、自然に任せれば、教育サービスを提供する

*名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授

側（生産者）と、それによる受益者（消費者）がいて、教育サービスとその対価である授業料その他の資源の交換（情報の交換も含めて）を通じて大学院教育の量や質が調整される。これは「市場（マーケット）によるコントロール」といえよう。しかし他方で、組織の経済学的に言えば、社会的な交換には、組織的調整も存在する。コントロールに関与する組織主体に着目すれば、大きくは「政府によるコントロール」、「大学によるコントロール」、「専門分野によるコントロール」、「専門職団体によるコントロール」が考えられる。

このように市場的調整に対する組織的調整には、さまざまな場合があり、現実にはそれらが密接に関わり合いながら、大学院プログラムがコントロールされる。だが、すべてを一度に検討する余裕はないので、まず本稿では、大学という組織が大学院プログラムのコントロールにどう関与しているのか分析する。以下では、全学的な観点からみて管理の主体となる組織にはどのようなパターンがあるのか、これらの違いは大学のタイプに依るのか、これらのパターンの違いの背景には何があるのか、を検討する。

(2) 調査対象

調査対象は、米国の東部と中西部の研究大学、及び一部西部の研究大学で、カーネギー高等教育機関分類（2000年）の博士/研究大学（多角型）に分類される大学である。ペンシルバニア州立大学ユニバーシティ・パーク校、オハイオ州立大学、パーデュー大学、アイオワ大学、ウィスコンシン大学マジソン校、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、ミシガン大学アナーバー校、ミシガン州立大学、ピッツバーグ大学、カリフォルニア大学バークレー校、コーネル大学、ノースウェスタン大学、ジョンズ・ホプキンス大学、プリンストン大学、カーネギーメロン大学、ボストン大学、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、イエール大学、スタンフォード大学であり、これらの大学の中で US News & World Reports の大学院ランキングで40位以内にある、法律、ビジネス、工学、教育、医学のスクール、そしてGSである。インタビューの相手は原則ディーンか副ディーンである。訪問時期は、中西部の大学は2005年秋から2006年春にかけて、西部の大学は2008年春である。GSには、GSの組織や役割について尋ね、個別のスクールでは、個別スクールからみたGSの役割、大学院プログラムの管理方式について尋ねた。インタビューだけでなくホームページの情報も用いた。

3. 大学院教育に関わる組織の概要

大学院教育にかかわる組織について概略しておけば、大学院教育は、大学院プログラム（graduate program）として組織される。Ph.D. (Doctor of Philosophy) プログラム、JD (Juris Doctor) プログラム、MD (Doctor of Medicine) プログラムなどである。プログラムはカリキュラム（教育課程）をベースにする教育組織だが、他方で専門分野・ディシプリンに基づき分割された教員組織としてデパートメント（academic department）がある。デパートメントに所属する教員は、学士課程教育や研究活動を担うが、しばしば大学院教育を支える最も重要な組織とされる。

ただし、プログラムやデパートメントがあれば済むわけではない。Medical School, College of

Engineering といった個別スクールが、複数の大学院プログラムを抱え、運営する。個別スクールは教員を雇用し、スクールの収入から大学院教育のための経費の大部分を出す。さらに大学には個別スクールと別に、しばしばグラジュエート・スクール (GS) が存在する。GS は、米国の大学院協議会によれば、「学生受け入れに決定権あるいは拒否権を持ち、大学院担当教員によって設定された諸規則の実行を確保し、全ての大学院学位の最終的な授与権限を持つ、独立の総括組織」であり「すべての大学院課程を通じた公平な基準を維持し、その質を管理する役割を負う」(大学院協議会編, 1994, 9頁)。

4. ‘graduate school’ という名称について

その ‘graduate school’ という言葉は、館も指摘しているが(館, 1997, 4頁)、日本での使われ方も異なるし、米国でも複数の使われ方があって分かり難い。ここで整理をしておこう。

まず日本では、研究科の訳として graduate school が使われる。学部(ここでは学士課程教育を行う組織を意味する)の上に研究科が積み上げられ、例えば、工学部 (School of Engineering) の上に工学研究科 (Graduate School of Engineering) が併置される。つまり各学部 (undergraduate school) の上に研究科 (graduate school) が存在する。ところが、米国では、館 (1997) の説明の通り、School of Engineering の中に graduate program と undergraduate program があり、graduate がつかなくても、スクールは大学院プログラムをもつ。しかし、米国では、graduate school はしばしば、大学にひとつある全学的な管理組織を指す。日本では、研究科の数だけ graduate school があるが、むしろ米国では限られている。ただし、他にも使われ方があるので紛らわしい。本調査の対象の大学を見た限りでは、以下の大きく3つのケースがある。

グラジュエート・スクール (GS-Graduate School)

この組織は既に述べたように大学院教育についての全学的な管理組織である。グラジュエート・スクール (GS-Graduate School) 又はグラジュエート・カレッジ (GC-Graduate College) と呼ばれ、大学によってはグラジュエート・ディビジョン (GD-Graduate Division) とも呼ばれる。

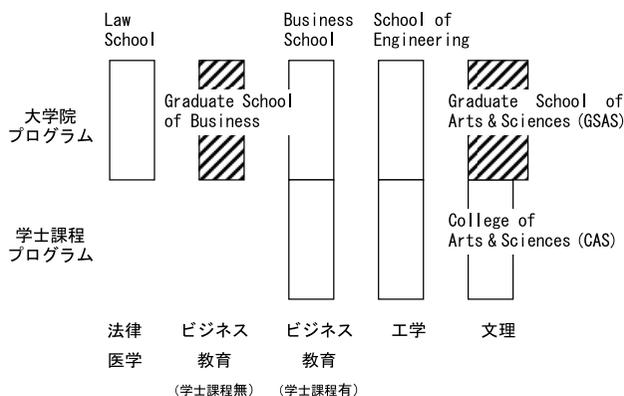
文理大学院 (GSAS-Graduate School of Arts & Sciences)

この組織は、文理カレッジ (CAS-College of Arts & Sciences) がベースにあり、その教員や領域をメインにして、他のスクール(例えば、ハーバード大学では、School of Engineering and Applied Sciences) の教員や領域を入れて、大学院組織としてまとめられたスクールである。

大学院のみのスクール・カレッジ (Graduate School of Education, Graduate School of Business)

教育とビジネスのスクールで、学士課程が無く、大学院プログラムのみを有する場合、Graduate School of Education, Graduate School of Business というように、graduate school という名称が使われる。ハーバード大学、ペンシルバニア大学、スタンフォード大学などでみられる。

図表1にスクールの名称と、学士課程の有無の関係について示した。ロー・スクール (Law School) やメディカル・スクールは、ふつう学士課程はなく大学院プログラムのみだが、それがふつうなのでわざわざ graduate という言葉は付かない。また、工学のスクールでは、ふつう大学院プ



図表1 学士課程の有無とスクールの名称

プログラムだけで学士課程がないということはないので、これもわざわざ graduate school とつける必要がない。しかし、教育やビジネスのスクールは学士課程を有する場合も有しない場合（つまり大学院だけの場合）もあるので、学士課程を持たないスクールが大学院プログラムのみであることを強調するために graduate school と名乗っているようだ³⁾。

5. 全学的な大学院管理方式

(1) 管理主体からみた3タイプ

米国の大学の管理運営においては、最終的な意思決定機関である大学理事会（Board of Trustees, Board of Regents）、執行機関として学長（President）がある。大学によっては大学評議会（Senate）が大きな力を持つ場合もある。大学執行部は学長室（President Office）とプロボスト室（Provost Office）からなり、学務関係については最終的にはプロボスト（Provost）が責任を有する。個別スクール（の Dean）はプロボストの管轄下にはいる。以上は研究大学ではかなり共通の構造だが、大学院教育固有の全学的な管理組織があるか否か、で大学院教育の全学的管理方式にバリエーションがあると考えられる。調査対象校を見ると、そのバリエーションには大きく3つある。「アンブレラGS型」、「GSAS（文理大学院）型」、「個別スクール型（非GS非GSAS型）」の3つである。

①アンブレラGS型

大学院管理組織として、前述したグラジュエート・スクール（GS）、又はグラジュエート・カレッジ（GC）、又はグラジュエート・ディビジョン（GD）が存在する場合である（以下、これらをまとめてGSと呼ぶ）。このタイプは、ペンシルバニア州立大学、オハイオ州立大学、アイオワ大学、インディアナ大学、イリノイ大学、パーデュー大学、ミシガン大学、ウィスコンシン大学、ミシガン州立大学など大規模州立大学に見られる（図表2参照）。

GSの機能は、CGS（2004）や舘（1994）に詳しいが、主に、新しい大学院プログラムの審査・

承認・評価、学位取得要件その他学務規則の決定、大学院担当教員の任用と審査、学生の入学管理（募集・選考）、学位の授与、学生支援（奨学金）等である。後述するように、大学によってGSの

図表2 大学院教育を管理する全学的組織

| 大学 | 設置形態 | 管理主体 | | | | 意志決定組織 | 大学院教育の責任者 | | 研究担当責任者との関係 | タイプ |
|---|------|------------------------------------|--|---|--|---|---|--|-----------------|-----|
| | | Graduate School (GS) | GSの管轄範囲 | Graduate School of Arts & Sciences (GSAS) | GSASの管轄範囲 | | 大学院教育の責任者 | 研究担当責任者との関係 | | |
| Penn State University (University Park) | 州立 | Graduate School | Medical degrees, Law degrees, (実質的にMBA)を除く | - | - | Graduate Council | Senior Vice President for Research & Dean of the Graduate | 併任 | アンブレラGS型 | |
| Ohio State University | 州立 | Graduate School | J.D., D.V.M., Dental degrees, Medical degrees (実質的にMBA)を除く | - | - | Council on Research and Graduate Studies | GS Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Senior Vice President for Research) | アンブレラGS型 | |
| Purdue University (West Lafayette) | 州立 | Graduate School | Lawの学位と獣医学の学位を除く | - | - | Graduate Council | GS Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Vice President for Research) | アンブレラGS型 | |
| University of Illinois (Urbana-Champaign) | 州立 | Graduate College | J.D. and D.V.M.を除く | - | - | Graduate College Executive Committee | GS Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Vice President for Research) | アンブレラGS型 | |
| University of Iowa | 州立 | Graduate College | M.B.A., M.D., D.D.S., J.D., of Law, and LL.M. of Lawを除く | - | - | Graduate Council | GS Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Vice President for Research) | アンブレラGS型 | |
| University Wisconsin (Madison) | 州立 | Graduate School | Master of Physical Therapy, Doctor of Audiologyを除く | - | - | Graduate Faculty Executive Committee | Vice Chancellor for Research and Dean of Graduate | 併任 | アンブレラGS型 | |
| University of Michigan (Ann Arbor) | 州立 | Rackham School of Graduate Studies | M.B.A., M.S.W. (Social Work), Law degreesを除く | - | - | Rackham Executive Board | Vice Provost for Academic Affairs- Graduate Studies, Dean of the Horace H. Rackham School of Graduate | 分離 (Vice President for Research) | アンブレラGS型 | |
| Michigan State University | 州立 | Graduate School | MBA, Law学位を除く | - | - | Graduate Council | Associate Provost for Graduate Education and Dean of the Graduate | 分離 (Vice President for Research and Graduate Studies) | アンブレラGS型 | |
| University of California (Berkeley) | 州立 | Graduate Division | MBA金融工学の修士、Law学位を除く | - | - | Graduate Council | GD Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Vice Chancellor for Research) | アンブレラGS型 | |
| University of Pittsburgh | 州立 | - | - | - | - | University Council on Graduate Study (UCGS) | Vice Provost for Graduate and Undergraduate Studies | 研究と分離 (Vice Provost for Research)、大学院独自ではない | 個別スクール型 | |
| Cornell University | 私立 | Graduate School | M.B.A., Law degrees, degrees, 獣医学の学位を除く | - | - | Special Committee | GS Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Senior Vice Provost for Research) | アンブレラGS型 +GSAS型 | |
| Northwestern University | 私立 | Graduate School | 専門職学位(MBA, master and doctor of music, doctor of medicine, and a variety of engineering, communication, education, law, and journalism degrees)を除く | - | - | Administrative Board of the Graduate School | GS Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Vice President for Research) | アンブレラGS型 +GSAS型 | |
| Princeton University | 私立 | Graduate School | architecture, engineering, finance, public affairs, public policyの修士を除く | - | - | Faculty Committee on the Graduate School | GS Dean (reporting to the Provost) | 分離 (Dean for Research) | アンブレラGS型 +GSAS型 | |
| Johns Hopkins University | 私立 | - | - | Krieger School of Arts and Sciences | MA, PhD (MSは含まれない) | Graduate Board (文理カレッジとSchool of EngineeringとのAcademic Councilの下に) | Vice Provost for Graduate and Post-doctoral Programs and Special Projects | 分離 (Vice President for Research) | GSAS型 | |
| Yale University | 私立 | - | - | Graduate School of Arts and Sciences | MA, MS, MPhil and PhD + 共同学位 (プロフェッショナル・スクールとの) | the Executive Committee of the Graduate School | GSAS Dean (reporting to the Provost) | | GSAS型 | |
| Harvard University | 私立 | - | - | Graduate School of Arts and Sciences | PhD, AM, SM, ME, and MFS | GSAS内に、the Administrative Board and the Committee on Graduate Education | GSAS Dean | | GSAS型 | |
| Boston University | 私立 | - | - | Graduate School of Arts & Sciences | MA, PhD (nearly 50 fields of the humanities, the natural, social, and mathematical sciences; theology, and music.) | Graduate Academic Council | Dean of Arts and Sciences (reporting to the Provost) | 分離 (Vice President and Associate Provost for Research) | GSAS型 | |
| University of Pennsylvania | 私立 | - | - | - | - | Graduate Council of the Faculties | 各スクールのDean (reporting to the Provost) | | 個別スクール型 | |
| Massachusetts Institute of Technology | 私立 | - | - | - | - | Committee on Graduate Programs (CGP) | 各スクールのDean (reporting to the Provost) | Dean for Graduate Education と Vice President for Research は別 | 個別スクール型 | |
| Carnegie Mellon University | 私立 | (各schoolがgraduate school) | - | (各schoolがgraduate school) | - | - | Vice Provost for Education | 学士教育、研究と分離せず | 個別スクール型 | |
| Stanford University | 私立 | - | - | - | - | - | Vice Provost of Graduate Education (VPGE) | 分離 (Vice Provost & Dean of Research) | 個別スクール型 | |

出所：ハーヴェー大学のGSの調査の結果 (GS及びGSASの管轄範囲) に、インタビューや大学のHPから得た情報を加えて作成。

役割の重点の置き方はいくらか異なるが、これらの機能はかなり共通である。ふつう大学院生は、実際には個別スクールで学ぶが形式的にはGSに所属し、GSから学位を授与される。GSは学生に対してフェローシップ等の経済的なサポートを行い、入試のプロセス、学位取得プロセスや学位要件の設定、新しいプログラムの承認、プログラム評価などに関わる。

しかし、GSを教育組織としてみれば、「固有の教員を持たない。他のカレッジの教員から構成される。GSは、大学院プログラムのための組織だが、教員をサポートしない。教員に対する財政的サポートではなく、大学院プログラムのための管理組織（administrative organization）である。14のカレッジ、100以上のデパートメント、それらが教員をもち、約100の大学院プログラムがある」「ふつう教員はデパートメントに属し、いくつかの大学院プログラムを担当する。教員はホーム・デパートメントを通じて、大学院担当教員になる。大学院プログラム担当の教員は学生への指導を行うが、財政的な補助はデパートメントが行う」（オハイオ州立・工学・副ディーン）。

他方で、GSの権限が及ぶ範囲については、かなり幅があるが（CGS, 2004；館, 1994）、調査対象校では、おおむねPh.D.（Doctor of Philosophy）、MA（Master of Arts）などの研究学位プログラムを管理する。専門職学位を含むことはあるが、法学（JD-Juris Doctor）、獣医学（DVM-Doctor of Veterinary Medicine）、医学（MD-Medical Doctor）等の学位はどの大学でもGSの扱う対象ではない。図表2は、パーデュー大学のGSの調査（東部・中西部のBIG10⁴）の大学に対するアンケート調査の結果に、その他の大学についてはインタビューや大学のHPから得た情報を加えて整理したものである。多少のバリエーションがあり、ビジネス・スクールのMBA（Master of Business Administration）については、オハイオ州立大学やイリノイ大学ではGSが管理するが、ペンシルバニア州立大学ではGSは関与しない。このように概してGSは専門職学位に関与しない傾向がある。だが、ビジネス・スクールもメディカル・スクールもその他のスクールが研究学位（Ph.D.）を出している場合も多く、その結果、GSは学内の多くのスクールに関わる。例えば、「ロー・スクールでは、単独ではPh.D.を出さないが、社会科学のデパートメントと共同でPh.D.プログラムを提供する。その場合には、GSが関わってくる」（インディアナ・法律・ディーン）。ビジネス・スクールでも、「MBAはスクールが決めて、形式的には大学が出す。GSの役割は殆どない。ただし、Ph.D.は別である。Ph.D.プログラムはGSに管理されねばならない」（オハイオ州立・ビジネス・ディーン）。

このようにGSは、学内の殆どのスクールの大学院プログラムに関与するが、教育組織ではなく管理組織として傘のように学内のスクールを覆う。その意味で、「アンブレラGS（Umbrella Graduate School）」と呼ぶことができよう。

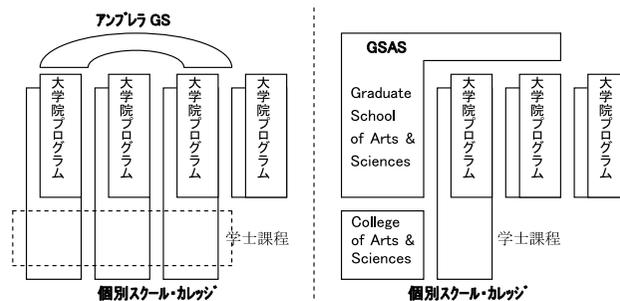
② GSAS（文理大学院）型

文理大学院GSAS（Graduate School of Arts & Sciences）が存在する場合である。GSASは、アンブレラGSと同様に大学院プログラム、文字通りarts & sciencesの学位であるPh.D.を中心に管理を行う。その意味ではアンブレラGSと機能は同様である。そのため、GSASが置かれる場合アンブレラGSはなく、アンブレラGSが置かれる場合GSASは存在しない。

しかし、組織的な違いがある。GSASは文理カレッジ（CAS）とは独立しており（Deanも異なる）、

その点はアンブレラGSと形式的には同じではあるが、教員組織は文理カレッジ（CAS）と共有する部分が多く（FAS-Faculty of Arts & Sciences）、実質的にFASをベースにした教育組織の体をなしている。「GSは、アイビーリーグの文理大学院（GSAS）のように教員のための管理責任を持っていない。文理大学院（GSAS）はテニュアを持つ教員を有し、教員の本拠（home）になっている」（オハイオ州立・工学・副ディーン）。アンブレラGS型では、教員の採用・昇進・サポートに責任を有するホーム・デパートメントは個別スクールにあるが、GSAS型では、教員のホーム・デパートメントは主にGSASにある。

GSASをもつ典型的な大学は、私立のアイビーリーグの大学である。調査対象校では州立大学でこれを持つ大学はない（学士課程段階の文理カレッジはある）。なお、私立大学でも、コーネル大学、プリンストン大学、ノースウェスタン大学は、GSASではなくGSを有し、これらはアンブレラGS型のようにも見える。しかし、州立大学のアンブレラGSと比較すれば、arts & sciencesの教員（FAS-Faculty of Arts & Sciences）を母体にする傾向が強く、むしろGSAS型に近い⁵⁾。アンブレラGS型とGSAS型を図式化したのが図表3である。



図表3 アンブレラGS型とGSAS型

GSASの権限が及ぶ範囲については、GSASは文理カレッジ（CAS）の大学院部分ではあるが、文理カレッジが関わる領域を越えた領域を含む。そして文理カレッジのarts & sciences以外のスクールの研究学位Ph.D.、MA、MSも管理する。例えば、J.D./Ph.D.やM.D./Ph.D.等の共同学位という形態がとられる。「文理大学院（Graduate School of Arts and Sciences）は、73のデパートメントとプログラムの中で、MA、MS、M.Phil、Ph.D.に至るプログラムを提供する。文理大学院はまた、非学位プログラムの機会も含めて、イエール大学のプロフェッショナル・スクールとの共同学位プログラム（joint-degree programs）を提供している⁶⁾。「GSはJDプログラムにはまったく関与せず、JD/Ph.D.プログラムは共同学位プログラムなので関わる」（ノースウェスタン・法律・ディーン）。さらに共同学位ではなく、例えばイエール大学のメディカル・スクールでは、MDの学生以外に、多くのPh.D.の学生が実際にはメディカル・スクールの各デパートメントに所属し、教育研究が行われているが、形式的にはPh.D.はメディカル・スクールではなくGSASが授与し（MDはメディカル・スクールが授与する）、学位取得の要件もGSASの決めた要件に従う。このように、研究学位（Ph.D.）を中心に管理するという点では、GSASもアンブレラGSも同様である。

③個別スクール型

GS や GSAS といった大学院管理のための全学的組織が置かれていないケースである。州立大学では、調査校ではピッツバーグ大学だけである。私立大学では、カーネギーメロン大学、MIT など比較の実用志向で理工系の強い大学もあるが、広い分野で評価の高いスタンフォード大学やアイビーリーグのペンシルバニア大学などもこのタイプである。

(2) それぞれの管理方式の特徴

「アンブレラ GS 型」では、ディーン (Dean) がおり、ディーンや大学院担当教員の代表などからなる大学院カウンスル (Graduate Council) を有し、GS の意思決定機関、諮問機関として、学位取得要件やさまざまな規則を設定する。パーデュー大学の「大学院カウンスルは、学士以後の学習と学位プログラムに関わる大学のポリシー全てに責任を有し、とりわけ GS へのアドミッション、学修の基準、授業科目群とプログラム、外国語の要件、登録要件、そして他のすべての上級学位のための要件に関わるポリシーに責任を負う」⁷⁾。大学院カウンスルには複数の委員会 (committee) がある。大学によっては、大学院カウンスルの代わりに、大学院執行委員会 (Executive Board, Executive Committee)、などが置かれる。単にルールを作るだけでなく、例えばミシガン大学の GS の大学院執行委員会は全学の教員から12名が選挙で選ばれるが、毎月2回会合し、新しいプログラムの認可、廃止、評価などの決定を行う⁸⁾。

大学に対しては、GS のディーンが大学院担当副学長 (Vice President for Graduate Education) や副プロボスト (Vice Provost for Graduate Studies) になって大学院教育の最高責任者となるか、あるいは他の個別スクールのディーンと同様に、学務の最高責任者であるプロボスト (Provost) の指揮下に入る。いずれにしても、GS が存在する場合、学務最高責任者のプロボスト以外に、全学の大学院固有の責任者 (大学院担当副学長、副プロボスト) を持ち、大学院教育が管理の対象として重視されている。また、管理上、研究と大学院教育とは同じ管理下に置かれることがあるが、とくに管理上大学院をより重視するところでは、大学院担当の副学長や副プロボストが、研究担当とは別に置かれる (図表2)。なお、先に述べたように主に専門職学位プログラムは、GS が関わるのではなく、個別のスクールが全面的に管轄し、個別スクールのディーンがアンブレラ GS を通さずに直接にプロボストの管轄に入る。

「GSAS (文理大学院) 型」では、アンブレラ GS と同様にディーンがおかれ、大学院カウンスルや大学院委員会 (Graduate Board) を有する。ハーバード大学では、「文理大学院のディーンは、大学院教育を行う領域の教員に関わるポリシーを執行し監督する責任が課されている。ディーンは、大学のポリシーの運営においては、運営委員会と大学院教育委員会 (Administrative Board and the Committee on Graduate Education) の指示を受ける」⁹⁾。大学との関係では、GSAS のディーンがプロボストの指揮下に入り、ディーンを通じて大学は GSAS の大学院プログラムを管理する。

「個別スクール型」では、個々のスクールが大学院プログラムの管理主体となり、スクールのディーンが直接プロボストの指揮下に入る。スタンフォード大学のように、GS や GSAS はないが、大学院担当副プロボストがおかれることもある。カリキュラムや学位要件などは、大学院固有の決定機

関がおかれる場合もあるし、ない場合もある。例えば、ピッツバーグ大学では、大学院教育カウンシル (UCGS-University Council on Graduate Study) が置かれる。「大学院教育カウンシルはすべての領域の大学院教育及び研究に適用される基礎的基準、規則、ポリシーを策定する。大学院教育カウンシルは、大学の学士課程以降の新たな学位プログラムや資格プログラム全ての申請に関して、それらの申請がスクールでの適切な人物による事前の検討を経た後で、再検討、評価を行い、プロボストへの勧告を行う」¹⁰⁾。GSがないため各スクールのディーンが直接プロボストにつながる。「ピッツバーグ大学は、プロボストを通じて、全ての教育プログラムを監督し、大学院教育及び専門職教育のための、そして学位授与のための広範なガイドラインを制定する。各スクールは、ディーンを通じて、特定のプログラムを構築し、カリキュラムを設定し、質のコントロールを保証する責任を有する。学位授与を行うプログラムが複数のスクールに渡る場合は、スクールは管理の分担 (shared governance) のための方法と手続きを確立するためにプロボストと協働する」¹¹⁾。

さらにはカーネギーメロン大学では、そうした全学的な組織すらない。Ph.D.に必要な要件の設定やカリキュラム設定、質の維持に関わる全学的組織について、「我々はGSASを持たない。アンブレラGSを持たない。〔大学院教育に関して〕教務担当副学長の役割はない。Ph.D.を得るための要件を設定するための評議会もない。7つのカレッジ (カーネギー・インスティテュート・オブ・テクノロジー、美術カレッジ、H・ジョン・ハインツIII公共政策・経営スクール、人文学及び社会科学カレッジ、メロン科学カレッジ、コンピュータ科学スクール、テPPER・ビジネス・スクール) が全ての学士課程及び大学院プログラムを運営している」¹²⁾。

(3) アンブレラGS型とGSAS型の相違とその背景

アンブレラGS型とGSAS型との違いについては、既に述べたように、専門職学位については双方ともに対象としていないので違いはないが、研究学位については、管理的組織に特化したGSが管理するのか、教育組織でもあるGSASが管理するのかで違う。そこには同時に、大学全体が研究学位 (Ph.D.) をどのように管理するのか、という違いがあるように思われる。

アンブレラGSは学内のほとんどのスクールに関与するが、それは州立大学で研究学位が多くのスクールで提供されているためである。しかし、GSAS型が多いアイビーリーグ等の私立大学では、Ph.D.は文理大学院 (GSAS) に集中する傾向がある。極端な場合、例えば、ハーバード大学では、GSAS以外の学内のスクール(=プロフェッショナル・スクール)がPh.D.を出すことは許可されない。例えば教育大学院は、GSASがPh.D.を出すことを認めないので、Ed.D.のみを提供している¹³⁾。つまり、Ph.D.を学内でどの程度広げて出せるようにしているのか、ということで違いがある。

こうした違いは歴史的な文脈に依存するところが大きいと考えられる。もともと個別スクールから生まれた州立大学では、個別スクールが強く、学士課程プログラムも、文理カレッジ以外のスクールが有することが多く、文理カレッジは学内でアイビーリーグの大学ほどには特別な存在ではない。また、職業学校、農学校から始まった大学も多く、実用的・専門職的教育に抵抗はない。その結果、専門職学位と研究学位の区別もアイビーリーグほど厳しくはないのであろう。多くのスクールがPh.D.に関わり、Ph.D.への拘束が弱いので、その結果大量のPh.D.を生産できる。他方で、アイビー

図表4 大学の大学院プログラムへの関与のパターン

| | | アンブレラGS型 | GSAS型 | 個別スクール型 |
|---------------|------------|----------------|----------------|---------|
| 管理主体 | 研究学位プログラム | アンブレラGS | GSAS | 個別スクール |
| | 専門職学位プログラム | アンブレラGS+個別スクール | 個別スクール | 個別スクール |
| ティーチングの主体 | | 個別スクール | 個別スクール(GSAS含む) | 個別スクール |
| 研究学位と専門職学位の区別 | | 弱い | 強い | 弱い |
| 機関の特徴 | | 州立大学 | アイビーリーグ大学 | — |

リーグの大学は、歴史的にみて文理カレッジが中心に位置づく。これらの大学では学士課程プログラムも文理カレッジに集中する傾向があり、規模も大きい。その文理カレッジに Ph.D. のための文理大学院 (GSAS) ができて、その周辺にプロフェッショナル・スクールが追加されていく。その結果、Ph.D. は文理カレッジを中心に管理され、その管理は文理カレッジ以外のスクールにも及んでいく、あるいは個別スクールには Ph.D. を出させないというようなケースまで存在する。文理カレッジが他のカレッジの Ph.D. の管理に乗り出していく様子をジョンズ・ホプキンス大学の例がよく物語っている。「大学院委員会 (Graduate Board) は、文理スクールと工学スクール (Schools of Arts and Sciences and Engineering) の教学カウンシルの下位委員会 (Subcommittee of the Academic Council) である。最初の Ph.D. と MA は、文理スクール (School of Arts & Sciences) で授与された。大学院委員会は、他の大学部門がプログラムを開発し、Ph.D. と MA を授与し始めたとき、そこからのメンバーを大学院委員会に含めるために、そのメンバーシップを拡大した。大学院委員会は、MA と Ph.D. の授与のための全学的なポリシーと手続きの管理のための責任を有する」¹⁴⁾。

以上の研究学位と専門職学位の区別の度合いの違いを加えて、全学的な大学院管理方式のパターンを整理すると図表4のようになろう。

6. 全学的な管理組織と個別スクール (デパートメント) の役割分担

以上、全学的な管理組織のパターンを見てきたが、それらの全学的な管理と個別スクールの役割分担はどうなっているのだろうか。

専門職学位については、これまでの検討にあるようにアンブレラGS やGSAS の関与は小さい¹⁵⁾。例えば、「大学の評価でプログラムが終わることは稀だ。評価は米国弁護士協会による JD プログラム評価のみである」(ノースウェスタン・法律・ディーン)。「MBA に GS はまったく関与しない。MBA を規制するのは外部のアクレディテーション団体である。州政府も口を出さない」(ペンシルバニア州立・ビジネス・MBA ディレクター)。「大学が MD プログラムを監督することは殆どない。プログラム評価はするが、MD は大学から独立したプログラムだ。Ph.D. はいくらか大学からコントロールされるが、MD はスクールとアクレディテーション団体がコントロールする」(イエール・医学・副ディーン)。外部のアクレディテーション団体が、GS やGSAS に代わる役割を果たす。

こうしたアクレディテーション団体の規制は、重要であることは言うまでもないが、周知のよう

に専門職プログラムとしての質の最低基準を満たすかどうかをチェックするだけで、「特定のカリキュラムの規制を行うわけではなく、ただ、良い教育を行っているかどうかスクールの評価を行うだけだ。内容はスクールが責任をもつ」(ノースウェスタン・法律・ディーン)。また、専門職プログラムは、しばしば、かなり自由に「学生数はスクールがきめることができる。ただし、問題なのは教員当たりの学生数であり、質が問題である」(同上)とされ、教育の質を維持するために、やたらに収入増のために学生を増やすようなことはしない。授業料の設定も、私立大学ではスクールが自由に決めることができ、州立大学でも、同じ大学の他スクールよりは比較的自由に設定できる。ただし自由といっても、他大学のライバルのプログラムとの比較で決める。つまり質や量は個別スクールがライバルとの競争の中で調整している。

他方で、研究学位はアンブレラGSやGSASがある程度コントロールするが、その強さは大学によってかなり異なる。例えば、パーデュー大学では、GSのディーンによれば、「GSは大学院プログラムの内容には関わらない。我々は幾つか最低要件を有する。修士なら30単位、Ph.D.の最低要件は、大学院レベルの学業が90単位。研究単位、コース単位の割合は、それぞれのデパートメントが決めることができる。総単位数の最低が90単位であり、デパートメントは95といってもよいし、110単位といってもよい。また、学位を取るにはGPAが3.0以上だ」「GSは、これまでプログラムが不人気だからという理由でプログラム廃止を勧告したことはない。我々は大学院プログラムの評価については組織的に行ってこなかった。でも、それはすべきだと考える」(パーデュー・GS・ディーン)。つまり最低要件を課すだけで、プログラム評価も行わないGSがある。学生数も多くの研究大学では、各スクールやデパートメントが実質的に決めることができる。それは、大学院生の授業料や給費が研究助成金から出され、研究助成金の獲得額が大学院生の数を大きく左右するからである。

しかし、ミシガン大学の場合、GSの副ディーンによれば、GSは「1年に1度、大学院プログラムのすべてを評価する。130プログラムすべて。我々は、プログラムへの応募数、合格者の中で入学した者の数、卒業後の就職者数、学位取得にかかる時間、成績を見る。評価後に、GSが廃止を勧告したプログラムもある。GSは12名の教員からなる執行委員会にコントロールされる。メンバーは全学の教員から選挙で選ばれる。1か月に2回会合し、新しいプログラムの開始を許可し、古くあまり機能しなくなったプログラムを廃止する」(ミシガン・GS・副ディーン)。ミシガン大学ではPh.D.プログラムの学生数もGSが決める。「GSは大学院生にフェロシップを出す。研究助成金は大学院プログラムのコスト全体をカバーできるわけではない。3、4、5年と短期的だ。研究助成金がとれないこともある。もっと安定が必要だ。そのためにGSはフェロシップを通じて助成を行う。他の大学では、各カレッジが学生数を決めることができるが、ここでは違う。ラッカムGSは大きな寄付を受け、大きな基本財産を持つ稀なGSであり、それゆえ他大学のGSよりも大きな力を持つ」(同上)という。ただし、このように強いGSはミシガン大学などに限定され、必ずしも一般的ではない。さらに言えば、そういうミシガン大学でも、カリキュラムや授業の内容への関与については、「時々、質が悪い場合に、我々は気にかける。しかし、普通は気につけない。我々は、要件、適切な学生への経済的サポートの金額、教えている教員の質、を評価する。その上で、積極的に内容や授業や変えることはふつうしない。しかしたまにそういうことも起きる、学科が悪いと

き、質が低いときだ」(ミシガン・GS・副ディーン)とあり、いわば最低水準を下回れば口を出す、ということらしい。

個別スクールの立場にたてば、イエール大学では「GSASが質のコントロールを行うが、最低の要件つまり、GPAやプロセスなど形式的なことをきめるだけで、Ph.D.はデパートメントによって完全にコントロールされる。Ph.D.の要件はデパートメントが決める」(イエール・医学・副ディーン)。イリノイ大学でも、「GSの機能は、Ph.D.を監督するための教員の資格を与え、修了試験をアレンジし、最低要件をみたすかどうかチェックする程度である。それ以外の機能は非常に小さい。GSによるプログラム評価などもあり、学生があまりに少ないPh.D.プログラムは廃止すべきだ」というアドバイスをうけることもあるが、これも稀である」(イリノイ・工学・ディーン)。ウィスコンシン大学でも、「GSは、いくつの単位をとらねばならないかなど、最低要件を求めるが、実際には内容については見ない。カリキュラムはカレッジに運営が任されている。教育の内容は、この大学では教員にまかされている。学則でも、教育の内容の決定は教員に与えられている。管理運営もそうである。教員による統治(faculty governance)である」「日々の運営では、GSの力は弱いが、MSやPh.D.を新しく加えるか否かになると、GSが関わる」(ウィスコンシン・工学・ディーン)。ペンシルバニア州立大学でも、「GSはカリキュラムに口を挟まない。彼らは、単位数や学位に必要な要件をチェックする」(ペンシルバニア州立・教育・副ディーン)。インディアナ大学でも、「Ed.D.は完全にスクールにコントロールされる。Ph.D.はGSの要件と教育のスクールの要件に従う。全てのPh.D.は、GSとキャンパス・カリキュラム委員会の承認が必要である。だが、大学は監督しているだけであり、殆どの決定はこのスクールで行われている。第一の責任はこのスクールにある。GSは要件を課すのみである。アドミッションもこのスクールのデパートメントで決定される。デパートメントが重要である」(インディアナ・教育・副ディーン)。

GSの機能としては、学生への経済的支援があるが¹⁶⁾、これは法律やビジネスのスクールの研究学位プログラムにとっては欠かせない。ロースクールにとっては「GSの役割は財政サポートであり、Ph.D.学生の数を管理する、なぜなら、Ph.D.学生は授業料を払わないので」(ノースウェスタン・法律・ディーン)。「GSの役割は、質の管理、評価である。プログラムを見て、どううまくやっているか?と聞く。学生数にはかかわらない。Ph.D.はGSに財政的サポートをうける」(オハイオ州立大学・ビジネス・ディーン)。JDやMBAの学生と違って、Ph.D.学生は財政的に大学側がサポートする必要があるが、これらのスクールでは研究助成金はわずかなため、GSの支援の役割は大きいようだ。

しかし、研究大学の工学、自然科学、医学等のスクールの研究学位プログラムは、教員が膨大な研究助成金を獲得しPh.D.学生の学費や生活費を負担する。学生数も研究助成金の規模に左右される。RA、TA、奨学金は、大部分個別スクールの財源に依存し、それと比較すればGSが提供する奨学金の規模は小さい。「大学院プログラムがうまくいくかどうかは、実際には教員がどれだけ資金を獲得できるかによる。資金を取って学生に与えることができなければ、プログラムは失敗する。GSASが関心するのは、アカデミック・スタンダードである。でも資金獲得に競争力がないプログラムで生き残れるものはない」(イエール・医学・副ディーン)。「MDは国家試験がある。アクレディ

テーション団体がカリキュラムや基準をコントロールする。だがPh.D.はスクールが自らやる。特にデパートメントが重要である。評判が重要で、それはどの大学も同じである。良い仕事をしないと職を得ることはできない。マーケットによるコントロールである」(ボストン・医学・副ディーン)。

このように研究学位では、GSのコントロールは質の最低水準を維持する役割があり、他方で個別スクールは、資金の獲得や卒業生の研究能力の評価を通じて、ライバルたちとの競争で品質維持を行っている。

以上をまとめれば(図表5)、専門職学位については、GSやGSASによるコントロールは殆どなく、外部アクレディテーション団体のコントロールはあるが、これは最低要件を求めるだけである。研究学位プログラムに関しては、GS、GSASによる関与は幅があるものの概して限定的で、主に最低要件を求めるものである。そして実際には、専門職学位も研究学位も、社会や専門分野における卒業生の評価(労働市場での評価)が重要で、そこでの競争が高い質の維持に貢献している。

図表5 全学的な管理組織と個別スクールの役割分担

| | 品質管理 | |
|-------|------------------------|------------------------|
| | 最低基準・要件のクリア | 高い質の維持 |
| 研究学位 | 大学中央(GSやGSAS)によるコントロール | 個別スクールによるコントロール(市場的競争) |
| 専門職学位 | 外部の専門職団体によるコントロール | 個別スクールによるコントロール(市場的競争) |

7. 結 論

これまでの検討をまとめれば、第一に、米国の研究大学における大学院プログラムの全学的な管理方式には、アンブレラGS型、GSAS(文理大学院)型、そして個別スクール型、の違いがある。ただし、他のタイプもあるかもしれないので、さらに事例を増やす必要がある。この中で、アンブレラGSとGSASが管轄するのは、主に研究学位プログラムである、という意味で機能的には同様だが、アンブレラGSは管理組織に特化しているという違いがある。

さらに第二に、アンブレラGS型とGSAS型の違いは、Ph.D.を学内でどの程度まで広げて出せるのか、という違いである。それは研究学位と専門職学位を区別する度合いの違いであり、州立大学とアイビーリーグ大学の歴史に規定されていると考えられる。この点については、さらに詳しい歴史学的検討が必要であろう。

しかし第三に、こうした全学的な管理は限定的であり、個別スクールの役割が大きい。全学的なコントロールは、質の最低水準を維持するように求めるのに対して、個別スクールは、ライバル大学のプログラムとの競争を通じて、高い水準の維持に努力している。その意味では役割分担がなされている。これは研究学位についてだが、専門職学位についても、研究学位における全学的な管理組織に相当するのが、外部のアクレディテーション団体であり、やはり専門職学位プログラムでも個別スクールが高い水準の維持に役割を果たしている。すなわち、いずれの場合も、個別スクールが、卒業生の労働市場における評価を踏まえて、市場的な競争の中でプログラム向上、品質管理を図っている。そこには、外部に競争的な労働市場に加えて、研究学位ならば研究助成金、専門職学位ならば高額な授業料収入という具合に、学位に応じた財源構造があつて(阿曾沼, 2007)、大学

中央よりも個別スクールの自律的運営に結びつくような大学院固有の財政基盤があることも背景になっていると考えられる。

とはいえ、こうした米国の研究大学のシステムにも課題はある。アンブレラGSやGSASとしては何処まで専門職学位を含めるべきかが問題になっている。課題解決のために専門職学位は研究との結びつきを強めている。例えば、研究大学では、アカデミック・キャピタリズムの進展の中で(Slaughter and Rhoades, 2004)、伝統的な専門職学位ではない、ディシプリン・ベースの専門職修士が増えている。また、プロフェッショナル・スクールといえども、評判(reputation)を得るために研究機能、Ph.D.を重視せざるを得なくなりつつある。とはいえ、Ph.D.を増やせばGSにコントロールされるわけで、高い自律性を失いたくないと考えるスクールには葛藤がある。逆に、大学によっては個別スクールへの依存志向も強くあり、スタンフォード大学のように数年前にGSをやめてしまった大学もある。大学がどこまでコントロールすべきかという問題は解決されているわけではない。

他方で、日本の大学院教育の管理方式には、アンブレラGSもGSASもない。政府の設置認可以外は、大学中央によるコントロールはなく、個別のスクール(研究科)に依存する。日本では、研究学位と専門職学位という明確な区別がなく、その上Ph.D.のベースとなるarts & sciencesの理念もないし、また、専門職学位も外部の専門職団体によるコントロールが明確になっていない。その中で個別のスクールやプログラムに過度に任せてよいのかという問題があるだろう。米国の研究大学の場合、個別スクール(とデパートメント)による分権的運営が可能なのは、学位の多様性に応じた財政基盤の違いを背景として、前述したようにスクールやデパートメントのレベルで市場的競争の中で、自律的かつ戦略的な経営が行われているからだろう。日本の学部・研究科にそうした習慣や能力があると言えるのだろうか。そういう日本でどのような大学院プログラム管理が適しているのか、今後検討すべき課題といえよう。

【注】

- 1) 館(1994)は、日本にない組織である、グラジュエト・スクール(Graduate School、館は「大学院本部」と訳す)の制度を紹介した。館(1997)は、学士課程と大学院の組織を分ける日本の組織構成と違って、米国ではひとかたまりの教員団がプログラムとして学士課程と大学院を持つことを指摘し、大学のタイプ別に大学院組織の構成を検討した。また、プロフェッショナル・スクール(学士課程プログラムも有す)を専門職大学院と訳すことの間違いを指摘した(館, 2004)。
- 2) この点について館との対話によれば(2008年10月18日)、米国の研究者にとっては当たり前のことであり、日本人から見た米国の大学院の特徴について教えてはくれない、という。
- 3) なお、メディカル・スクールに関してGraduate School of Medical SciencesとかDivision of Graduate Medical Sciencesなどが存在する。例えば、コーネル大学のWeill Cornell Graduate School of Medical Sciencesは、コーネル大学のニューヨーク・キャンパスにあるスクールで、Weill Cornell Medical Collegeの教員を母体の一つとし、医学に関わるPh.D.プログラムを提供するカレッジである。このカレッジにgraduateが付くのは、大学院プログラムのみであること

を強調したという意味もあるだろうが、MDを主体とするメディカル・スクールに対して、Graduate School of Medical SciencesはPh.D (research-oriented Ph.D.)を主体とするからという考えがあるようだ。

- 4) 米国中西部を中心とする大学スポーツのカンファレンス。イリノイ大学(アーバナ・シャンペーン校)、ミネソタ大学(ツインシティー校)、パーデュー大学、ウィスコンシン大学(マジソン校)、インディアナ大学(ブルーミントン校)、アイオワ大学、ミシガン大学(アナーバー校)、オハイオ州立大学、ミシガン州立大学、ペンシルバニア州立大学、からなる。
- 5) コーネル大学は、学内に州からの経常費補助を受ける州立スクールというべき3スクールがあり(Ehrenberg, 2002, p.157)、州立大学の要素をもつ。ノースウェスタン大学も、周辺の大規模州立大学と競っているため、州立の影響が大きいかもしれない。また、プリンストン大学の場合、GSのディーンへのインタビューによれば、プリンストン大学はアーツ&サイエンス中心の小規模な大学で(プロフェッショナル・スクールの数も少ない)、ハーバード大学のように独立性の高い多数のスクールの集合体ではなく、学内では大学中央による集権的な運営がなされているという。そのためより全学的な組織として、GSASではなくGSとしているのかもしれない。
- 6) <http://www.yale.edu/graduateschool/visitors/ygs.html>
- 7) <http://www.gradschool.purdue.edu/faculty/administration/mission.cfm>
- 8) ミシガン大学のGSのシニア・アソシエイト・ディーンによる。
- 9) http://www.gsas.harvard.edu/dean_and_administration/a_short_history.php
- 10) <http://www.pitt.edu/~graduate/ucgs.html>
- 11) ピッツバーグ大学メディカル・スクールの副ディーンへの、メールでの質問の回答による。
- 12) カーネギーメロン大学ビジネス・スクールのディーンへの、メールでの質問の回答による。
- 13) ハーバード大学教育大学院のアソシエイト・ディーンへのインタビューによる。なお、Ed.D. (Doctor of Education)は一般には専門職学位だが、ハーバード大学の場合は特殊で、Ph.D.が出せないためにEd.D.に研究学位としての機能もあり、実際優れた研究者を輩出している。
- 14) <http://www.graduateboard.jhu.edu/procedures.htm>
- 15) 新しいプログラムの開始には、理事会の承認や、州立大学であればしばしば州の高等教育委員会の承認を得る必要がある。大学によるプログラム評価がなされる場合もある。また、専門職学位でもGSに管理される場合もある。
- 16) GSはアドミッションに関与するが、GSが応募を処理し、要件を満たしたものを個別スクールのデパートメントに送り、そこで決定され推薦された者を合格者としてそのまま受け入れるのが普通で、合格通知に含まれる経済的援助の情報もデパートメントから受けて添付する。

【参考文献】

- 阿曾沼明裕 (2007) 「米国における大学院の財政基盤の多様性」『高等教育研究』第10集, 玉川大学出版部, 195-216頁。
- 大学院協議会 (編), (館昭訳) (1994) 「資料 大学院協議会編『大学院教育の組織と管理運営』」『高等教育研究紀要』第14号, (財) 高学教育研究所, 116-141頁。
- 館昭 (1994) 「アメリカの大学院の制度と組織」『高等教育研究紀要』第14号, (財) 高等教育研究所, 1-10頁。
- 館昭 (1997) 「アメリカの大学院組織」『学位研究』(学位授与機構研究紀要) 第6号, 1-21頁。
- 館昭 (2004) 「社会のプロフェッショナル化と大学— professional school に関する一考察」『高等教育研究』第7集, 玉川大学出版部, 7-12頁。
- Council of Graduate Schools (2004). *Organization and administration of Graduate Education*. Washington, DC: Council of Graduate Schools.
- Ehrenberg, R. G. (2002). *Tuition Rising*. Cambridge: Harvard University Press.
- Slaughter, S. & Rhoades, G. (2004). *Academic Capitalism and the New Economy*. Baltimore: Johns Hopkins Univ. Press.

Patterns of Administration of Graduate Education in American Research Universities

Akihiro ASONUMA *

In Japan, enhancement of graduate education has been one of the main issues of reform of higher education since the middle of the 1980s. The increase in the number of graduate students and graduate programs, especially new types of professional programs, seems to require us to reconstruct organization and administration of graduate education. However we have not necessarily paid much attention to or really studied how to administer graduate programs. Although the American graduate education system has been often referred to in discussing the issue of graduate education in Japan, its organization and administration has not been really investigated.

In this paper, therefore, we examine the patterns of administration of graduate education of American research universities that have various kinds of graduate programs and have wide experience that may provide significant guidance for the reform of Japanese graduate education. Administration of graduate education in America is undertaken at various levels: department, program, school, college, graduate school and by the university's central administration. This paper does not address the lower-level administration by departments or programs, but focuses on the upper-level administration provided by the school, college, graduate school or university. What role does the university central administration play in controlling graduate education? What role does an individual school or college play in controlling graduate education in comparison with the graduate school or university central administration? These questions are explored by using data and information obtained from interviews with Deans and Associate Deans of several colleges of research universities.

The findings indicate that there are three types of administrative styles of graduate education in American research universities: an 'Umbrella GS type,' a 'GSAS type' and an 'Individual School type.' Many public universities have an umbrella-type Graduate School, Graduate College or Graduate Division which administers mainly research degree programs ('Umbrella GS type'). Private universities, typically Ivy League universities, often have a Graduate School of Arts and Sciences which administers research degree programs ('GSAS type'). Some universities have neither an Umbrella GS nor a GSAS but use an 'Individual School type'. The differences among the 'Umbrella GS type,' 'GSAS type' and 'Individual School type' are studied and the backgrounds and factors of the differences are also discussed. In the second half of this paper, we show how individual schools or colleges play important roles in controlling graduate education (both research degree programs and professional degree programs) in order to compete with rivals and maintain their prestige. The discussion also examines how roles are shared among the university's central administration, external accreditation bodies, and individual schools (colleges). Finally implications for Japanese universities are discussed.

* Associate Professor, Graduate School of Education and Human Development School of Education, Nagoya University